

■いいね！いぬやま総合戦略K P I 一覧表

1	2	3				4
基本 目標	施策の方向性（5年間のすすめかた）	目標指標（K P I）				結果 (数値) H28
		指標	現状値 (H26)	目標値	目標年度	
気持ちいい住環境 「暮らしたいまちがある」	◆幹線道路沿いの商業施設誘致にチャレンジ。買い物の不便さを解消し生活都市としての魅力を高める。 ◆「自然や“農”が近くにある暮らし」など、犬山ならではの新たな暮らし方の価値観を提案し「住むまち」としての魅力を市内外に効果的に情報発信することで、都市ブランド力を高め「住みたいまち」を実現する。 ◆定住を促すため、空き家や低・未利用地の活用、民間活力を活かした住宅の整備など、魅力ある住環境づくりに挑戦する。 ◆幹線道路や鉄道駅を核として買い物や交通の利便性の良さを活かした「まちの魅力」を向上する。 ◆若者世代・子育て世代の市内定住に向け、U I J ターン、就業の支援に加え、子育てと仕事の両立のため、多様な子育て支援を展開。小児医療や教育環境の充実なども加えて、若者が安心して結婚し、子を産み、育てることができる社会の実現に挑戦する。	合計特殊出生率	1.57	1.63	H31	—
		社会移動人口 (転入出増減) ：人	-85	0	H31	171
		今後も犬山市に住み続けたいと考える市民の割合 ：%	83.0	90%	H31	86.0
居場所と出番 「活躍したいまちがある」	◆新たな起業や地域ブランドが生まれる環境と仕組みづくりにチャレンジする。 ◆基幹産業である「工業」充実のため、新たな工業団地の整備等を進め、雇用の場を確保する。 ◆「祭り・伝統文化」などを通じた地域内の融和・地域力の向上にチャレンジする。 ◆すべての子どもが自信と希望(目標)を持つことができるよう、あらゆる世代の人や地域と関わりを持ちながら自ら学び、成長できる環境を整える。 ◆女性や若者、高齢者を始め多様な主体が活躍できる居場所と出番づくりを応援する。 ◆地域に応じた多様な地域活動を応援する。また、地域の課題を自らが解決しようとする取り組みを応援する。 ◆地元大学等の教育機関が活躍する場と機会の確保を重視。学校と学生の力を地域課題解決に活かす。	事業所数 ：事業所	2,673	2,726	H31	2,673 (H26)
		市民活動に参加している市民の割合 ：%	11.0	18.0	H31	8.7
人の交流 「訪れたいまちがある」	◆すべての取り組みを市内外に広めるためのシティプロモーションを展開。効果的な情報発信・地域の絆強化・郷土愛の醸成を図る。 ◆「豊かな自然」「城」「伝統文化」「人の優しさ」など、犬山が誇る地域資源を活かして「犬山ファン」や「心から地元を誇りに思う気持ち」を育む。住む人が地域への誇りを高め、市外の人にも魅力的な「訪れたいまち」を目指す。 ◆「観光」を戦略的に展開。観光を基軸に地域資源を活かしながら、多様な分野と連携。観光を産業として裾野を広げ、産業全体の強化に挑戦。重点とする視点は「新しい観光の魅力発掘」であり、特に「体験」「人の交流」「滞在」をテーマに展開する。	観光入込客数 ：万人	563	586	H31	571
		犬山のまちに愛着を感じる市民の割合 ：%	78.1	85.0	H31	82.5

■地方創生加速化交付金関連事業K P I 一覧表

1	2	3			4	5
交付対象 事業の名称	事業の概要・目的	(目標指標) K P I			結果 (数値) H28	実施内容
		指標	目標値	目標年度		
よみがえれ地域！水辺を生かしたまちづくり活性化プロジェクト	①木曽川鵜飼の伝統を若者が継承事業 船頭を公募し、若手見習いを一人前に育成するのに必要な指導を実施。伝統漁法の保全・継承、若者の新たな雇用創出、観覧船と遊覧船事業の拡充による地域経済活性化という事業効果を目指す。市観光協会が木曽川鵜飼を強力にPRし外国人観光客を積極誘致。将来は若手船頭が、増加する外国人観光客へのおもてなし対応力を高め、インバウンド需要の取り込みを図る。 ②栗栖地区住民を主体に「地域課題を考える会」を発足。地域が収益を得て地域内の別の課題に再投資するなど、自立し自走する持続可能な仕組みの構築を目指す。なお、本事業は犬山地区と栗栖地区の活性化を主眼に置くが、河畔沿いは夜の賑わいが喪失するなど課題が山積。今後は、本事業を契機に河川空間全体を活かし多様な主体が自走し活躍できる、特色ある地方創生を実現する。	見習い船頭の乗船回数（延べ） ：回	450	H28	450	市公式HP、広報紙掲載のほか、近隣市町への広報掲載などにより募った7名の新人「なか乗り」を、鵜舟及び屋形船の乗船を通して養成。また「とも乗り」4名の操船技術向上を行い、それぞれ、5/1～12/21までで450回の技術向上のための訓練が実施できた。
		新規就労する若手船頭の数 ：人	3	H28	6	新人「なか乗り」7名のうち、3名が操船技術を取得し、合格及び6名の継続意向が確認できた（1名は体調不良により、来年度は辞退）。「とも乗り」4名の操船技術向上を行い、4名とも来年度の継続意向が確認できた。
		栗栖まちづくり会議の参加者数 ：人	100	H28	142	「未来まちづくり塾@栗栖」を6回開催し、地元住民を中心として毎回20人前後の参加があった。
		自立・自走の 為のまちづくり イベント参加者数 ：人	100	H28	117	「未来まちづくり塾@栗栖」のメンバーが、3つのグループに分かれてお試しプロジェクトを実施した。 歩いて見なきゃ！ミラマチ栗栖：33人 ママさんお散歩マップづくり：31人 栗栖で本物のキノコづくり：53人
若者とシルバーが農で大活躍！桃から生まれた地域おこしプロジェクト	①若手農業者が中心となり「(仮称)稼ぐ農の研究会」を発足。市、観光協会、地元大学、桃農家、シルバー人材センター、市内飲食店などが参加。現状を知り、マーケットを見据えた生産と販売、PRの手法などを徹底的に研究し実践。若手農業者の自立と市の農業全体の振興を図る。また、地元大学や洋菓子店などと連携し「売れる特産品」の開発研究を進め観光と経済の活性化を図る。特に、「桃」は、新たな担い手の発掘と育成を進め、若者のしごとの機会を創出するとともに栽培技術などを伝承。6次加工品開発も含め、桃ブランド再興を必ず実現する。活動の中で土壌調査や移植準備など桃畑の移転を検討。移転後は宅地化を進めることで人の流れをつくり、定住促進に繋げる。 ②シルバー人材センター農業初挑戦事業の推進 自立した経営基盤強化と市の諸課題に寄与するため農業分野に参入する。H27年度に策定する全体計画に基づき、H28年度は会員の研修等による人材育成、拠点施設整備の為に計画づくりを進める。本格的な事業実施後は、高齢者の安定した就業機会の確保、高齢農家の農作業支援(特に桃農家の支援)、学校給食や市内朝市への提供による地産地消推進、農の拠点での観光農業体験、若者の農の学校(研修所機能)などの展開を目指し、「農で地域おこし」の一翼を担う。	稼ぐ農の研究会開催における参加者数 ：人	100	H28	110	若手農業者やJA、観光協会、商工会議所、大学により構成され、市職員も参画して進められた研究会を5回、視察を1回開催し、農業経営に関する研究を行った。
		桃サポーター講座受講生による桃農家支援者数 ：人	10	H28	13	桃サポーター養成講座を卒業したメンバーにより構成されるサポータークラブの取組として、5軒の桃農家に対し、13人のサポーターが農作業支援を実施。延べ71人日。H28にサポーター養成講座の卒業生によりサポータークラブが発足され、支援体制の充実が図られた。
		観光地で桃などの特産品プロモーション活動実施時の参加者数 ：人	500	H28	271	入鹿池にて実施された世界かんがい施設遺産登録周年祭にて、来場者に対し、入鹿用水受益地内で栽培されたお米をPR用にパッケージを作成し配布を行った。
		農の拠点づくりの為に開催した研修等へのシルバー会員参加者数 ：人	100	H28	91	実際に栽培している農園に出向いた研修を中心として、計8日間延べ91人が参加し、知識と技術の向上を図った。